

平成 28 年度 第 2 回中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 12 月 16 日 (金) 午後 1 時 00 分から午後 2 時 30 分まで
会 場	市役所本館 6 階 講堂
出席者	中央区自治協議会委員 26 名 教育委員:藤田教育委員, 田中教育委員 事務局:教育総務課長, 学務課長, 地域教育推進課長, 教職員課管理主事, 学校支援課長補佐, 生涯学習センター所長, 中央公民館長, 中央区教育支援センター所長, 指導主事 中央区役所:地域課
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(藤田教育委員, 田中教育委員) 3 出席者紹介 4 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について(学校支援課説明) 5 意見交換(司会 中央区教育支援センター所長) ～テーマ～「学校と地域とのかかわりについて」 ・事前質問についての回答と意見交換
1 地域と地域教育コーディネーターとのかかわりについて	
自治協委員	私は, 新潟市立日和山小学校でコーディネーターをしております。 地域と地域教育コーディネーターについて, 小学校の統合により複数のコミ協が存在するところは, 新潟小学校, 万代長嶺小学校と日和山小学校があります。新潟小と万代長嶺小はパートナーシップ事業が始まる前に統合しており, 私が入舟小学校に勤務していた当時相談を受けたことがありました。学校としては 1 小学校に対してコミ協が複数あるよりも, 1 コミ協だとお互いに協力しやすい関係を作れるといったことでした。 実は, 私の考えは当時より少し変わってきました。統合により日和山小学校は, 1 小学校に対して 4 コミ協が(旧豊照小, 旧湊小, 旧栄小, 旧入舟小の校区)それぞれ濃厚なつきあいをさせていただいており, それぞれが地域と共に歩んで学校運営と地域活動を行ってきました。それを大切にしながら新しい日和山小学校をやっ ていかなければならない。さらに 4 コミ協の課題として, 地域の高齢化の部分があります。子供たちは少ないのですが, 高齢化率が 30%を超えている地域なので, もし, コミ協が 1 つになった場合, 福祉の部分で大変になると思っています。 学校教育以外で考えた場合, やはり 4 コミ協でいることが住民のためには良いと思っています。学校長とのお話のなかで, 学校としては, 地域の宝物を大切に して, 地域に子供たちをなじませていきたい。そのためには地域のみなさんから学校教育をどう理解していただけるか, それが一番大事なことだと思っています。 子供たちをどんどん外へ出して行きたいと考えていますが, 先ほどの 4 コミ協でそれぞれの行事にすべて子供たちを送り出すのは無理がある。例えば, 新潟まつりにおいて各コミ協で同じ日にまつりに参加してと言われても, 子供たちは 360 人しか

いませんし、それを割振りするのは難しい。子供たちを地域に出したいのですが、学校としては苦勞しているところではあります。

地域の子供たちは、地域で磨かれて育っていくわけで、今後地域のために活躍してくれる子供たちだと思っていますし、これからも学校としては引き続き子どもたちを見守っていただきたいと思っています。

今後、中央区では統合の話はありませんが、北区や秋葉区で小学校の統合が示されているところでもありますので、そのようなところに日和山小学校や新潟小学校、万代長嶺小学校が他の地区のコミュニティの見本になるような事例をひとつでも生み出せるように、今後も努力して参りたいと思っています。

自治協委員

地域教育コーディネーターの人員配置について、以前にも申し上げましたが、学校児童 300 人に対して 1 人のコーディネーター、850 人に対してコーディネーター 1 人という現状で、予算がない、勤務時間に限りがあるということで、なかなか地域の行事に参加できない。コーディネーターさんのなかにはよその地域から来ていただいている方もおり、コミ協や地域の人たちをよくわからない方もおります。

資料の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」というアンケート調査でも、全国平均を下回っている結果が出ているわけですから、地域教育コーディネーターの全体バランスを考慮した配置をお願いしたいと思っています。

自治協委員

一つの事例として報告いたします。

地域のまつりのことですが、住吉祭りと地元のまつりが前後して、どうしても子供たちが疲れるなど子供たちの参加率が悪いとお聞きし、地元のまつりの幹事さんに住吉祭りは何百年も続いている大きな祭りであり、その日程はほぼ決定しているのので、地元のまつりは、その前後一週間をいい形で再度日程調整してはどうですかと言いました。二年前にやりました。その結果ものすごい参加率でした。これは一つの提案でございます。

一つの校区でこのようなことですから、複数の校区が地元のまつりを行うとなると大変な数になります。地元のまつりについては、みんなが持ち寄って、まつりがどうという文化で踏襲する必要があるか、開催日を合法的に検討し、みんながうまく参加できるような可能性を見出すことが、私たちの考えるポジションとっております。

教育委員会
事務局

子供たちが参加しやすいように、子供たちのことを考えていただき、ありがとうございます。できないではなく、できる方向で考えていく、こういうことが大事な取り組みと思いました。

それからコーディネーターの配置についてですが、現在、コーディネーターへの要望や執務に対しての取り組みが多様になっている状況であり、今年度からコーディネーターの複数配置を奨励しております。複数で対応していただければ、例えばそれぞれの得意分野や地域のつながりが大きい方がいらっしゃるといことなので、そういう方々が分担して進めてはどうでしょうかと提案しております。

昨年度 70 数校であったものが、今年度は 95 校で複数配置により事業を進めていただいています。配当された時間を増やすのは厳しいものがありますが、それぞれ分けながらやっていただきたいと思えます。

ただ、複数の場合打ち合わせの時間が必要ですから、この分については特別に配当いたします。それでも現状では、時間を超えた場合ボランティアとして扱っているとありますので、今後検討していかなければいけないと思っております。

2 防災教育について

自治協委員 鳥屋野中学校区では、地域と子供たちの防災教育に力を入れており、当時森校長が柳都中学校で立ち上げたジュニアレスキュー隊を、今度は鳥屋野中学校にも作られまして、その子供たちに地域の防災訓練に参加していただき、簡易ベッドの組み立て方や発電機の操作方法などを地域方と一緒にになって指導してもらい、地域の方も非常に喜んでおりました。

これからも地域の方と子供たちが一緒にになって続けていただければと思いますので、よろしくお願ひしたい。

3 学校教育と地域の行事について

教育委員会 次学習指導要領において、地域とのつながりを大切にしようということを柱として考えています。

自治協委員 自治会行事と関連するかと思いますが、子供会がございまして、例年夏休み前に、夏休み期間中に子供たちとどんなことをするか先生や町内の担当者と話し合っただけでラジオ体操をやっておりましたが、それも最近やめました。一週間という期間でもなかなか子供たちが参加しない。どうしてだろうと子どもに聞くと、お父さんやお母さんから朝早いから行くと言われてたと言いました。

そのへん皆さんのところはどうしているのかとか、学校側からのご指導や前のようであればいいなと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

自治協委員 いまのお話を聞いて、学校側としてどう考えているかということと、私が実際に保護者と関わって、現状を親がどう考えているのか少しだけ話させていただきます。

日和山小学校は統合して町内会の数は100を超えます。その方たちを呼ぶのも大変です。なかには子どもたちのいない町内会もあります。

地域に偏りがあり、バランスを考えていましたが、地域のやり方が違うためなかなか一つにまとめるのは難しいという学校の判断だったと思います。

先ほどのご意見のなかで、いままでの地域のものをこのままやり続けるから、学校は合わせてよというのは、正直むずかしい部分があると思います。実際、日和山小学校もなにか問題があれば4コミ協に集まって話し合いの場を設けていただき、場合によっては学校長に出席してもらおうというシステムができております。

子供たちの参加が少ないというのは、子どもというよりも親の意識が問題だと思っております。特に中央区の場合、親がその地元で育っていないこともあるかと思ひます。

地域の行事について、西蒲区であれば鯛車や白根では凧合戦など一生懸命やっている行事に、そもそも小学校、中学校が関わっていた。

中央区では新潟祭り、蒲原祭り、沼垂祭りなど大きな祭りの場合、学校単位で参加しているところもあります。それに対して地域の祭りではなかなか学校がどう動けるかというところもありますが、日和山小学校で、担任の先生がまつりの神輿があるので

参加しなさいとお手紙を渡したクラスの子供たちの参加率が高かった。やはり先生の発信力は大きいので、学校としてもその辺を把握し理解しています。今後も努力していくと思います。また、努力していかなければならないと思っております。そのためにも地域の方にも理解していただきたいと、コーディネーターとして間に入る立場としての思いです。

自治協委員

一つ良い事例として報告いたします。

ラジオ体操ですが、以前、参加率が悪いとお聞きしたところ、集合場所に蚊が多く発生して環境が悪いと言うことでしたので、保健所に連絡し、薬剤散布を実施しました。今年は父兄が携帯蚊取りを持参したところ、蚊がいないねということで大正解でした。

もう一つは、だいたい6時半頃からラジオ体操を始めと思いますが、始まる10分前に皆さんが集まります。その時間を利用して皆さんにどうしても言いたいこととか、おもしろかったことを言っていただけませんかと事前に提案しました。すると小学校4年生の女の子が「私やります」と手をあげてくれました。そうしたら僕も私もとなつて、順番を決めるくらいになりました。いざスタートしましたところ、もの凄く良かった。父兄さんも来ています。

そのなかで小学校4年生の女の子が、「わたしは朝ご飯をあまり食べることがなかった。ところがラジオ体操があるので早く起きました。お母さんがご飯を作ってくれました。食べました。おいしかったです。」そういうことが10日間話されたわけです。ずいぶん来てくれました。そこで今回は、話しをした方も話されなかった方もよくやったということで粗品を用意しました。

これをやることによって来年も集まっていただけだと思いますし、中学になってもこの行事はおもしろいよ。これは僕らのしかけ、やり方だと思います。

そういうことも、大人が指導的にやればおもしろいと思います。

4 子育ての基本とゆとり教育について

自治協委員

PTAのなかでゆとり教育がいいとか悪いとかの話は、正直出ておりません。

ですが、小学校、中学校の子どもを持つ母親との会話のなかで、ゆとり教育の話が出たことがあります。今の子供たちは、平日月曜日から金曜日学校から帰ってきて、塾や習い事など毎日スケジュールが毎日いっぱいの中で、「土日ぐらいは子供たちを休ませてあげたい、今の体制がいいよね。」という話が出たことがございます。

資料の結果をみると、やはり平日と土日の数字を比較して、子供たちが土日休むのはありなのではないかと思えます。

今、学力低下が指摘されてゆとり教育の見直しが言われていると思いますが、国際学力テストの評価が下がったためと聞いています。ですが、このテストに参加する国が増えたことにより評価が下がっただけで、資料をみても決して学力が下がったわけではないと認識しております。

子供たちの生きる力、思考力を高めるためにゆとり教育が必要と、昨今、事件事故が多いなかで、やはり子供たちに必要なのは生きる力だと思います。

教育委員

昭和 53 年頃、当時つめこみ教育といわれており、その結果学校の授業についていけない、いろんなところでどんどん落ちこぼれていく。なかにはそのことを苦に病んでという子どももいました。

日本の国全体として、この教育では子供たちをだめにするということで、そういうことをなんとか防ぐために、ゆとり教育の流れがつくられていったと記憶しております。

しかしながら、なぜか本当に子供たちの心にゆとりを取り戻して、学校で学ぶことが楽しい、そして学校で友達といろんなことを経験しながらすばらしい小学校、中学校時代を過ごしていこうというのが、なぜかゆとりがゆるみに置き換えられて変わってきたのかなと思います。

今、文科省は、日本の教育というのは、つめこみであったり、ゆとりであったり、振り子が大きく右に触れたり左に触れたり。それではだめなんだと。やはり子供たちがこれからの未来をしっかりと自分の力で生きていける。そういう力をつけさせるために、学力をしっかりとつけるし、また心もしっかり育んでいこうと次の学習要領が作られているところでございます。

学校と家庭が共に手を携えて、そして地域の方と協力しながら子供たちを育てていくことが肝要と思います。

5 学区外就学について

自治協委員

まず、学区外申請をした方が、事情が違うということで元の指定された学校へ戻った例はありますか。それから、地域と学校のきずなという観点で申しますと、旧湊小学校区の町内の一人として、半分は新潟小学校、半分は日和山小学校という状況です。そうすると日和山小学校の情報は入ってきますが、新潟小学校の情報は一切入ってきません。ですから町内会の行事を計画しても新潟小学校へ通わせている親は出てこない。これでは自治会として成り立たないという弊害が生じていると思っています。

越境入学している親御さんから聞いた話ですが、礎小学校が統合される時は、新潟小学校へ半分、豊照小学校へ半分ということでしたが、蓋を開けてみると全員が新潟小学校へ通っている。それから大畑小学校が統合した時は、湊小学校へは一人、他は全部新潟小学校へ通っていると。その方は、下町の学校より上(かみ)の学校へ行きたがると、旧湊小学校が日和山小学校に統合するときなぜ、新潟小学校と統合すると言わなかったのですかと言われ、そうしたら、越境入学のラベルを張られなくて済むということでした。

来春日和山小学校へ入学する子供たちは、61 人とそのうち 6 人が越境入学をと聞いております。こんな状態で今後日和山小学校が心配でなりません。越境入学の対策を検討していただきたい。

教育委員会

地域の行事の関係は、なかなか明確な答えは出しづらいと思います。

事務局

旧湊小学校からの転校については、学区外就学の状況を見ますと、小学生を長い距離歩いて登下校させることはいかないので、どちらかという隣接の学校へ通う傾向が多いことが見受けられます。

事情が違うということで、転校させた例はあるかということですが、資料が手元に

ないので、新潟市全体はちょっとわかりませんが、新潟小学校につきましては、共働きなどで子どもがちゃんと預かり先に帰っているかどうか学校側でも把握しており、いまのところ基準を外すような状況ではないということです。

対策については、法律的に保護者は子どもに義務教育を受けさせる義務があるということと、自治体はその環境を整えてあげないといけない。ただ、自分の校区に通わせることがむずかしいということであれば、学区外で学校へ行けるように環境を整えるのが自治体の役割と考えております。

自治協委員

先ほどの委員の方が言うように、私の町内でも兄弟三人おりまして、全員新潟小学校に通っているご家庭がございます。共働きでございます。しかし、身元引受人ということで様子を見ると、隣の町内の方がみている。先ほどの説明ですと学区外に預けるはずが、申請だけ出して実際の実情は違うということが、私の町内だけではなく他にもあるのではないのでしょうか。

また、以前にスポーツができないため、越境入学をするというものも基準になっていると聞きました。統廃合をやるのは結構ではありますが、そういう基準があることによって、その地域の学童が減っている。やらなくてもいい統廃合をやって、学校をつぶしていくこのやり方では、いずれ新潟小学校は飽和状態となり、ただ、増設すればいいのか対策をどのように考えているのか。

越境入学を止めるよう、教育委員会は、地元の学校をアピールするような教育、教員を配置していただきたい。

もっと地元で真剣に教育方針を持っていただいて、学校をどのように活かしていくかを考えていただきたい。

もう一つ、教員の適正審査や講習会を定期的実施していますか。

教育委員会
事務局

教員の適正審査については、10年に一回教員免許更新の際に、講習を受講することになっております。先ほど委員のお話しされた主旨のような試験はございません。

試験で落とすということはありませんが、適正に欠ける場合、再度研修を受けてもらおうという制度は新潟市にもございます。現場に戻れるよう指導力を高めることをねらいとし、排除するわけではございません。

議 事

6 閉会あいさつ

(人にやさしい暮らしのまち部会 座長)

教育というものは、非常に幅広く、奥深いものがございます。このような短時間で話し合えるものではありません。

次回からは、別の日、時間を取り、話し合いができるよう検討いただきたい。